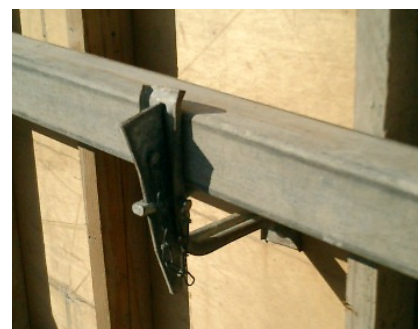


## ■正誤問題 (過去に出題された選択肢) 44 問

1. 型枠の建込み位置・精度の検査は、スケール、トランシット及びレベルを用いて行った。
2. 壁用の転用型枠として、支障のない程度 of 古材を使用した。
3. 型枠工事において、上下階の支柱は、平面上の同一位置に垂直に立てた。
4. コンクリートの圧縮強度が、設計基準強度の 85%に達したので、はり下の支柱を取り外した。
5. 床用の型枠として、フラットデッキを用いた。
6. 型枠組立て時に、柱の型枠下部に掃除口を設けた。
7. 型枠の組立てに当たっては、型枠の解体が容易にできるように施工した。
8. 型枠は、廃棄物の発生を抑制するために、現場合わせ型枠を少なくし、転用型枠を多くした。
9. せき板存置期間中の平均気温が 20℃以上であったので、所要の日数を経過した後に、柱及び壁のせき板を、圧縮強度試験を行わずに取りはずした。
10. 型枠の強度及び剛性の計算において、コンクリート打込み時の振動・衝撃による水平荷重を考慮しないで行った。
11. やむを得ず支柱の盛替えが必要になったので、スラブや小ばりの盛替えと合わせて、大ばりの盛替えを行った。
12. せき板を取り外した後に、コンクリートの湿潤養生を所定の材齢まで行った。
13. スラブ下の支保工は、コンクリートの圧縮強度が、設計基準強度の 100%以上に達したことを確認した後に、取り外した。
14. 柱・壁のせき板は、コンクリートの圧縮強度が  $5\text{N}/\text{mm}^2$  以上に達したことを確認した後に、取り外した。
15. はり下のせき板は、支保工を取り外した後、取り外した。
16. 一度使用したせき板は、監理者の承諾を受けた後、表面をよく清掃し、破損箇所等を修理のうえ、はく離剤を塗布し、再使用した。

17. 型枠工事の省力化のために、床用の型枠として、フラットデッキを用いた。
18. 型枠は、その剛性を確保するために、足場と連結させた。
19. 支柱として用いるパイプサポートは、2本継ぎとした。
20. 柱及びはりのせき板は、せき板存置期間中の平均気温が 10℃以上であったので、所要の日数が経過した後に、圧縮強度試験を行わずに取り外した。
21. コンクリートの圧縮強度が、設計基準強度の 85%に達したので、はり下の支柱を取り外した。
22. スリーブの取付けにおいては、コンクリート打込み時にスリーブが移動しないように、型枠に堅固に固定した。
23. 型枠支保工の組立て等作業主任者は、型枠支保工の組立・解体作業の方法を決定し、作業を直接指揮した。
24. 柱及び壁のせき板は、コンクリートの圧縮強度が  $5\text{N}/\text{mm}^2$  を超えたことを確認した後に、取り外した。
25. 型枠にかかるコンクリートの側圧が、過大にならないようにするため、コンクリートの打込み速さを考慮した。
26. せき板の取外し後は、直ちに、所定の材齢までの期間、コンクリートの表面を湿潤状態で養生した。
27. コンクリートの打込み後 5 日間の平均気温が 20℃以上であったので、圧縮強度試験を行わずに柱及び壁のせき板を取り外した。
28. コンクリートの圧縮強度が、設計基準強度の 50%に達したことを確認したので、はり下の支保工を取り外した。
29. コンクリート床スラブの型枠を支える支柱は、上下階で平面上の同一位置になるようにした。
30. せき板には、直射日光を避けて乾燥させた木材を用いた。
31. 支柱として用いるパイプサポートは、2本継ぎまでとした。
32. スラブ用の捨て型枠として、フラットデッキを用いた。

33. 柱及び壁のせき板は、コンクリートの圧縮強度が  $5\text{N}/\text{mm}^2$  に達したことを確認した後に、取り外した。
34. 木製のせき板には、コンクリートの硬化不良を防ぐために、長時間、直射日光で乾燥させたものを使用した。
35. せき板として用いるコンクリート型枠用合板の厚さは、特記がなかったので、 $12\text{mm}$  とした。
36. スリーブの取付けに当たって、コンクリート打込み時にスリーブが移動しないように、型枠に堅固に固定した。
37. 梁の側面のせき板については、コンクリートの打込み後 5 日間の平均気温が  $20^\circ\text{C}$  以上であったので、圧縮強度試験を行わずに取り外した。
38. 型枠の組立てに当たって、柱の型枠下部に掃除口を設けた。
39. 柱及び壁のせき板については、コンクリートの圧縮強度が  $3\text{N}/\text{mm}^2$  に達したことを確認したので、取り外した。
40. 支柱として用いるパイプサポートの高さが  $3.6\text{m}$  であったので、水平つなぎを高さ  $1.8\text{m}$  の位置とし、二方向に設けるとともに、水平つなぎの変位を防止した。
41. コンクリートの圧縮強度が  $5\text{N}/\text{mm}^2$  以上に達したことを確認したので、柱及び壁のせき板を取り外した。
42. 型枠の強度及び剛性の計算は、コンクリート打込み時の振動・衝撃を考慮したコンクリート施工時における「鉛直荷重」、「水平荷重」及び「コンクリートの側圧」について行った。
43. 廃棄物の発生を抑制するために、可能な限り、型枠を転用した。
44. 梁下のせき板は、支保工を取り外した後に、取り外した。



## ■正誤問題 解答編（過去に出題された選択肢）

1. 型枠の建込み位置・精度の検査は、スケール、トランシット及びレベルを用いて行った。  
1. ○
2. 壁用の転用型枠として、支障のない程度の古材を使用した。  
2. ○
3. 型枠工事において、上下階の支柱は、平面上の同一位置に垂直に立てた。  
3. ○
4. コンクリートの圧縮強度が、設計基準強度の85%に達したので、はり下の支柱を取り外した。  
4. × はり下の支柱の存置期間は、設計基準強度の100%以上の圧縮強度が得られた事が確認されてからです。
5. 床用の型枠として、フラットデッキを用いた。  
5. ○
6. 型枠組立て時に、柱の型枠下部に掃除口を設けた。  
6. ○
7. 型枠の組立てに当たっては、型枠の解体が容易にできるように施工した。  
7. ○
8. 型枠は、廃棄物の発生を抑制するために、現場合わせ型枠を少なくし、転用型枠を多くした。  
8. ○
9. せき板存置期間中の平均気温が20℃以上であったので、所要の日数を経過した後に、柱及び壁のせき板を、圧縮強度試験を行わずに取りはずした。  
9. ○ 柱や壁のせき板の最小存置期間は、コンクリートの圧縮強度によるか、存置期間中の平均気温が10℃以上の場合においては、所要の日数を経過した後に、取りはずすことができる。
10. 型枠の強度及び剛性の計算において、コンクリート打込み時の振動・衝撃による水平荷重を考慮しないで行った。  
10. × 水平荷重を考慮する必要があります。
11. やむを得ず支柱の盛替えが必要になったので、スラブや小ばりの盛替えと合わせて、大ばりの盛替えを行った。  
11. × 大ばりの支柱の盛替えは行わないこと。

12. せき板を取り外した後に、コンクリートの湿潤養生を所定の材齢まで行った。

12. ○

13. スラブ下の支保工は、コンクリートの圧縮強度が、設計基準強度の 100%以上に達したことを確認した後に、取り外した。

13. ○ **スラブ下およびはり下の支保工の存置期間は、設計基準強度の 100%以上のコンクリートの圧縮強度が得られたことが確認されるまでです。**

14. 柱・壁のせき板は、コンクリートの圧縮強度が  $5\text{N}/\text{mm}^2$  以上に達したことを確認した後に、取り外した。

14. ○ **基礎、はり側、柱、壁のせき板の存置期間は、コンクリートの圧縮強度が  $5\text{N}/\text{mm}^2$  以上に達したことが確認されるまでとします。**

15. はり下のせき板は、支保工を取り外した後、取り外した。

15. ○ **スラブ下およびはり下のせき板は、原則として、支保工を取り外した後に取り外します。**

16. 一度使用したせき板は、監理者の承諾を受けた後、表面をよく清掃し、破損箇所等を修理のうえ、はく離剤を塗布し、再使用した。

16. ○

17. 型枠工事の省力化のために、床用の型枠として、フラットデッキを用いた。

17. ○ **フラットデッキは、上面をフラットに、下面をリブ形状に鋼板を加工したもので、床型枠に用いられます。**

18. 型枠は、その剛性を確保するために、足場と連結させた。

18. × **型枠は、足場、遣方等の仮設物と連結させてはいけません。仮設物と連結すると、その移動の影響を受け、型枠の形状が損なわれるおそれがあります。**

19. 支柱として用いるパイプサポートは、2本継ぎとした。

19. ○

20. 柱及びはりのせき板は、せき板存置期間中の平均気温が  $10^\circ\text{C}$  以上であったので、所要の日数が経過した後に、圧縮強度試験を行わずに取り外した。

20. ○

21. コンクリートの圧縮強度が、設計基準強度の 80%に達したので、はり下の支柱を取り外した。

21. × **支保工の存置期間は、スラブ下・はり下ともに設計基準強度の 100%以上のコンクリートの圧縮強度が得られたことが確認されるまでとします。**

22. スリーブの取付けにおいては、コンクリート打込み時にスリーブが移動しないように、型枠に堅固に固定した。

22. ○

23. 型枠支保工の組立て等作業主任者は、型枠支保工の組立・解体作業の方法を決定し、作業を直接指揮した。

23. ○ **労働安全衛生法により正しい記述です。**

24. 柱及び壁のせき板は、コンクリートの圧縮強度が  $5\text{N}/\text{mm}^2$  を超えたことを確認した後に、取り外した。

24. ○

25. 型枠にかかるコンクリートの側圧が、過大にならないようにするため、コンクリートの打込み速さを考慮した。

25. ○ **型枠にかかるコンクリートの側圧は、コンクリートの打込み速さに影響します。**

26. せき板の取外し後は、直ちに、所定の材齢までの期間、コンクリートの表面を湿潤状態で養生した。

26. ○

27. コンクリートの打込み後 5 日間の平均気温が  $20^\circ\text{C}$  以上であったので、圧縮強度試験を行わずに柱及び壁のせき板を取り外した。

27. ○ **基礎・はり側・柱及び壁のせき板は、存置期間中の平均気温が  $10^\circ\text{C}$  以上の場合は、規定の日数が経過すれば、コンクリートの圧縮強度試験をすることなく取り外すことができます。**

28. コンクリートの圧縮強度が、設計基準強度の 50% に達したことを確認したので、はり下の支保工を取り外した。

28. **はり下の支保工は、設計基準強度の 100% 以上のコンクリートの圧縮強度が得られたことが確認されてから取り外します。**

29. コンクリート床スラブの型枠を支える支柱は、上下階で平面上の同一位置になるようにした。

29. ○

30. せき板には、直射日光を避けて乾燥させた木材を用いた。

30. ○ **せき板に用いる木材は、コンクリート表面の硬化不良を防止するため、できるだけ直射日光にさらされないよう、シートなどを用いて保護します。**

31. 支柱として用いるパイプサポートは、2 本継ぎまでとした。

31. ○

32. スラブ用の捨て型枠として、フラットデッキを用いた。

32. ○

33. 柱及び壁のせき板は、コンクリートの圧縮強度が  $5\text{N}/\text{mm}^2$  に達したことを確認した後に、取り外した。

33. ○

34. 木製のせき板には、コンクリートの硬化不良を防ぐために、長時間、直射日光で乾燥させたものを使用した。

34. × **木製のせき板は、できるだけ直射日光にさらさないように、シートなどを用いて保護します。**

35. せき板として用いるコンクリート型枠用合板の厚さは、特記がなかったので、12mm とした。

35. ○

36. スリーブの取付けに当たって、コンクリート打込み時にスリーブが移動しないように、型枠に堅固に固定した。

36. ○

37. 梁の側面のせき板については、コンクリートの打込み後 5 日間の平均気温が  $20^\circ\text{C}$  以上であったので、圧縮強度試験を行わずに取り外した。

37. ○

38. 型枠の組立てに当たって、柱の型枠下部に掃除口を設けた。

38. ○

39. 柱及び壁のせき板については、コンクリートの圧縮強度が  $3\text{N}/\text{mm}^2$  に達したことを確認したので、取り外した。

39. × **柱及び壁のせき板の存置期間は、コンクリートの圧縮強度が  $5\text{N}/\text{mm}^2$  以上に達したことが確認されるまでとします。**

40. 支柱として用いるパイプサポートの高さが 3.6m であったので、水平つなぎを高さ 1.8m の位置とし、二方向に設けるとともに、水平つなぎの変位を防止した。

40. ○ **労働安全衛生規則 高さが 3.5m を超えるときは、高さ 2m 以内ごとに水平つなぎを二方向に設けます。**

41. コンクリートの圧縮強度が  $5\text{N}/\text{mm}^2$  以上に達したことを確認したので、柱及び壁のせき板を取り外した。

41. ○ **基礎・梁側・柱・及び壁のせき板の存置期間は、コンクリートの圧縮強度が  $5\text{N}/\text{mm}^2$  以上に達したことが確認されるまでとします。**

42. 型枠の強度及び剛性の計算は、コンクリート打込み時の振動・衝撃を考慮したコンクリート施工時における「鉛直荷重」、「水平荷重」及び「コンクリートの側圧」について行った。

42. ○

43. 廃棄物の発生を抑制するために、可能な限り、型枠を転用した。

43. ○

44. 梁下のせき板は、支保工を取り外した後に、取り外した。

44. ○

